

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100096		
法人名	株式会社 ブルーム		
事業所名	グループホーム さくら (みずいろ)		
所在地	〒026-0055 岩手県釜石市甲子町5-2-4		
自己評価作成日	令和6年11月22日	評価結果市町村受理日	令和7年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①夕涼みや敬老会に家族の参加も数年ぶりに行い、家族、入居者の笑顔があった。 ②防災訓練(火災・災害)も継続している。マンネリ化した訓練にならないように工夫している。 ③地域行事への参加、(敬老会、釜石祭り) 敬老会においては、洞関コミュニティで地域の高齢者の方々と共に行った。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、釜石市の西部に位置し、JR釜石線洞泉駅には徒歩5分、道の駅釜石仙人峠から車で3分ほどの住宅地の中にある。運営法人は市内に有料老人ホームやデイサービスなど五つの事業所を展開し、事業所同士が連携しながら相互に運営をサポートする協力体制が整っている。町内会主催の行事(盆踊り・運動会・日帰り温泉旅行・敬老会)にも積極的に参加し、近所の方が事業所の避難訓練を見に来てくれたりと、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。利用者が入居前の在宅当時と変わらない生活ができるよう利用者のペースに合わせた介護を提供している。夜間想定など工夫した防災訓練や独自の専用避難所設置、訪問診療医師の協力による終末期の対応など、防災や家族の思いに寄った看取りなど、生命に関わる重要な事柄を疎かにしない支援に取り組んでいる。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域のコミュニティ会館を活用し、地域の方々と の交流を行った。	地域密着型サービスとしての意義や役割を込めた理念は、平成24年に開業した際に、経営者と職員が検討して策定した。「理念」について定期的に見直しの検討を行なっているが、改訂はなかった。「理念」を生活全般に落とし込み、職員の意思統一を図り、支援、実践に結びつけるよう対応している。職員が日常的に目につく場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とも繋がっており、敷地内の梅の木も伐採して頂いた。	利用者と職員が地区の旅行会に参加したり、事業所主催の夕涼み会に地域住民が参加するなど、幅広い交流が行われている。コロナ禍の収束により、地域住民と事業所との合同の敬老会開催など、地域との幅広い交流も再開している。事業所は町内会に加入し、総会や町内会の草刈りなどに参加している。地域とのつながりも深く、運営推進会議の委員でもある町内会長に火災警報が自動通報されるように設定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議では現在の状況について報告しており、様々な意見を頂いている。	運営推進会議は町内会長、民生委員、家族代表、市職員などで構成され、会議は年6回、事業所内で開催されている。会議では、利用者の状況や活動報告、事故・ヒヤリハット事例、利用者の状況を報告し、意見交換が行われている。	運営推進会議の委員に、防災訓練や敬老会、昼食を一緒に摂るなど事業所での実際の生活を体験してもらい、その後に、委員から感想をもらう、困っていることの解決案を相談し意見をもらう、或いは、(例えば警察関係者からの)講話の後に懇談するなど、会議の持ち方を工夫した開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に継続して包括の方にも参加して頂き連絡調整を行う体制を取っている。また、成年後見制度を利用する予定の利用者もあり、今後進めていく予定。	地域包括支援センター職員が委員として運営推進会議に参加している。市主催の研修会に参加するなど、市が担う地域包括支援センターや生活保護担当課と事業所との関係は良好である。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、社内研修を実施している。玄関の施錠は行わず、センサーで対応している。	身体拘束に関する指針とマニュアルを作成している。法人で身体拘束・虐待防止委員会を設置し、月1回委員会を開催している。当事業所からは2人が委員会に出席している。社内の全体研修を年2回(18時~19時)開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、社内研修に取り入れ、周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが、施設で利用している利用者がいれば、職員に申し送り等で分かりやすく説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅に伺ったり、事務所に来て頂いて、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や要望やあった時は、職員間で話し合い会議や研修会で報告している。	利用者が自由に話せる環境づくりに努めている。意思疎通が困難な利用者には「ハイ」「イエ」で答えてもらえるように質問の仕方を工夫している。家族の意見については、事業所から電話連絡したときなどに要望等を受ければ職員間で共有し、検討のうえで出来るだけ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや普段の業務の中で職員から意見があった場合、社内の運営会議や合同会議の際、報告したり相談したりしている。	社長の個人面談を年1回実施し、職員の要望等を聞いている。毎日の申し送りや普段の業務の中で職員から意見があった場合、管理者による社内の運営会議や、管理者に加え、ケマネジャー及び相談員による合同会議の際に報告、相談している。早番の業務を日勤の業務へ変更するなど、職員の意見を反映させ、業務の見直し効率化を図っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が毎月個々のタイムカードをチェックしている。必要時には職員との面談を行う。また、毎月勤務表作成時は職員個々から休み希望を受けできるだけ希望に叶ったシフトを作成している。今年度から職員旅行や年末の懇親会を開催予定。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修会を実施。また、資格取得の研修に参加できる体制を取っている。外部研修の参加にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加する機会がなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人が不安にならない様、在宅ケアマネと協力し、不安なく入居できた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族が来所したり自宅に伺ったりして、不安なことがあればそれに対応できる様な支援に努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご自宅や病院に伺い、困りごとを聞き、状況把握に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせず、本人ができること、(食器洗い、洗濯、洗濯干し、洗濯たたみ)を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月毎にご家族様に状況報告の手紙を出したり、必要時には電話等で連絡を取り合い、状況報告したり電話を取り次ぎ、家族との会話ができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の近所の方も面会に来られたり、馴染みの美容室にも通う支援を行っている。	入居前の在宅当時と変わりのない生活の提供を心掛けている。馴染みの美容室に通う利用者もいる。また、訪問の理美容師・訪問サービスの薬剤師など新しい馴染みもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話ができるようなテーブル配置や座席の配置を工夫している。会話が苦手な方がいても、職員が関わり孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も荷物の預かりや郵便物等の保管を行い、終了後もフォローを続けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望に沿うように対応を心がけている。	ほとんどの利用者は意思表示ができる。意思疎通が困難な利用者には「ハイ」「イエ」で答えてもらえるように問いかけたり、耳の遠い利用者にはジェスチャーで伝えたりなどの工夫を凝らしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、今までの生活歴等を情報収集し、以前の生活に近い環境で生活が送れるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日職員間の申し送りで、心身の状態等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書をご本人やご家族と一緒に確認したり、希望や意見を聞き、反映させている。	入居前はケアマネジャーと管理者でモニタリングを行う。入居後、1~2カ月で見直し、その後、状態に変化がなければ、6か月ごとに計画を見直している。アセスメントはケアマネジャーと居室担当者だけでなく、全職員で行なっている。食事の形態が変わるとき、状態の変化があった場合などには、利用者、家族と話し合い計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録している。気づいた点や工夫した点は、申し送り等で報告し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じて、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、在宅医療や通院の支援も行っている。	入居前からのかかりつけ医に、家族付き添いで通院している利用者もいるが、多くの利用者は協力医の訪問診療に変更している。眼科、歯科など受診の際は、訪問診療を行う協力医から紹介状をもらい、職員が付き添って通院し、その結果を家族に報告している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、入院までの経過を病院側に伝え、入院後もやり取りをしている。また、退院の際にも入院中の情報を受け取り、必要であればご本人との面会をさせてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医との話し合いの場を持ち、本人、ご家族の希望に合わせて対応している。また、家族の要望に応じ、看取りも行っている。	昨年度は6人の看取りを行った。利用者が重篤な状態になってきた場合には、医師から終末期、看取りについて、家族に直接説明し、利用者本人、家族の意向を確認して対応している。訪問診療の医師(協力医)は24時間、いつでも対応してくれる。事業所では、ターミナルケア研修も実施し職員のケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会を行っている。また、消防署による心肺蘇生やAEDの講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、消防署立ち合いのもと訓練を行っている。町内会と災害時の地域協定を締結し、災害での避難場所として地域の方々の受け入れを行っている。	毎年火災と水害・土砂災害想定避難訓練をそれぞれ2回(昼・夜)、消防署立ち合いのもとで実施しているほか、職員招集訓練も別途実施している。事業所は避難所(受入れ先)として町内会と協定を締結している。利用者は、急に多くの知らない住民のいる市の指定避難所で過ごすことが難しいことから、事業所の避難所として、法人の別の事業所の近くに独自で民間住宅を借り上げている。災害時に職員は、自宅から最寄りの法人の別事業所に参集することをBCPIにも規定している。災害でエレベーターが使用できないとき、利用者が座ったまま階段をスムーズに降下できる非常用階段避難車も備えている。感染症対策として、職員のため借家(3室)を確保している。利用者の居室には陰圧室とするための機材を配備している。	

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を毎年実施している。日々の業務の中でもお互いに注意しあうよう努めている。	職員は言葉の選択に気を配り、職員同士でいつでも注意し合う関係ができています。幼稚園の先生だった利用者には、現役時代に培ったキャリアを活かして、利用者皆で歌うときにリーダーとして歌の指導をしてもらうなど、利用者のキャリアを尊重している。利用者のプライバシー保護を心掛け、丁寧に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話で本人の希望をくみ取り、実践するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望するレクリエーション活動があれば、実践している。夜間もテレビを好きな時間まで見ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んで着ている。化粧も自由に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けを一緒に行っている。要望を聞き、苦手な食材は出さないよう工夫している。	それぞれのユニットで、職員が交代で調理し、楽しい食事になるよう盛り付け等にも気を配っている。一部の利用者は下膳や食器拭きなどを手伝っている。コロナ禍前は回転寿司や居酒屋にも出かけていた。近くの道の駅に出かけてラーメンを食べることもある。コロナ禍で出来なくなっていた利用者、職員一緒に回転寿司店での外食を予定している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きなときに水分を取れる状況にしている。10時と15時に水分とおやつ時間を設けている。個々に合わせた食事量や栄養補助食品を活用している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを実施している。一人でできない方には介助し職員が口腔内を確認している。また、毎食時口腔体操も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をチェックし表に記入している。個々に応じて日中、夜間トイレ誘導を行っている。	職員は、排泄チェック表で利用者の排泄パターンを念頭に、フランクに声掛けてトイレ誘導を行っている。利用者18人のうち、布パンツの方が4人、リハビリパンツの方が13人、おむつの方は1人となっているが、中にはおむつからリハビリパンツに改善した方も1人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には医師に相談し、内服薬で調整している。また、水分補給にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入浴曜日は決まっているが、状況に合わせてその都度対応している。	入浴は原則、日曜日を除き13時から15時までの間、週2回としている。本人の希望によりシャワー浴だけとしている利用者もいる。異性介助に抵抗感がある利用者には、同性の職員が介助している。一番風呂や熱い湯、ぬるい湯の希望、長湯をしたい方、浴槽で歌って楽しむ方、それぞれに対応し入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めていない。個々の生活パターンに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更についての申し送りを行い、薬の説明を行い、目的や容量については理解できるよう周知している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望する嗜好品(コーヒー、ゲーム)を個別に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの美容室の送迎による外出をしている。 また、通院の帰りに、家族や職員の支援により買い物できるよう支援している。	事業所前の国道には歩道が整備されていないため、散歩の機会は少ないが、利用者2、3人で車で花見に出かけたり、買い物の希望があれば、職員が利用者と一緒に買い物に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望した際には、所持金で買い物をした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時には取り次いでいる。また、本人が希望した時には自由に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温を調整し、心地よく生活できる環境を作っている。季節に合わせた飾り物を掲示し、季節感を味わっていただいている。	日当たりの良い共有空間には、テーブル、椅子、ソファ、テレビが置かれ、利用者がそれぞれ好きな場所で将棋や、利用者同士や職員とのおしゃべりを楽しむなどして心地良く過ごしている。壁面には、季節感のある装飾が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にくつろげる環境にしている。一人になりたい時は自由に居室で休んで頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくら (みずいろ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	好きな家具や位牌を持参し、思い思いに配置し ている。	利用者の居室には、エアコン、ベッドや筆筒、洗 面台が備え付けられている。カレンダーや家族 写真を飾ったり位牌を持ってきている方もあり、 利用者それぞれが心地よい居室を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋がわからない利用者には、分かりや すく表示したものを設置し、対応している。事務 所や台所がオープンになっており、利用者様の 様子が見えるようになっている。		